

東日本大震災記録

分野：東北大学大学院医学系研究科 保健学専攻 画像情報学分野

教授：町田好男

分野所在地：保健学科 B 棟 2 階および 1 階

連絡先：ymachida (@) med.tohoku.ac.jp

・構成員の被害： 震災当日は、教授 1、助教 1、大学院生 3、卒業研究生 6 名が在籍。幸い全員が無事であった。

・建物、実験設備等の被害： 幸い被害は特になかった。所属する保健学専攻放射線技術科学コースの中で、本分野は現在、オープン MRI 装置や生物実験室の管理を行っているが、MRI 装置の寝台の横ずれに気付いた程度で済んだ。宮城県では「来るべき宮城県沖地震」に備えていたが、当分野でもこの効果が相当にあったものと思う。

・社会貢献： 放射線技術科学コースとして住民の方の一時帰宅に係る緊急時被ばくスクリーニングの支援を行った。本分野でも、南相馬での一時帰宅者のスクリーニングなどに参加した。また現在（平成 24 年度）、厚生労働省科学研究の分担研究者として、東北被災 3 県の MRI 装置の被災状況調査を、各県の現場の診療放射線技師の皆さんと協力しながら行っている。MRI にかかわる者として、可能な社会貢献をしていきたいと考えている。

・その他

震災前後、分野長の町田は放射線技術科学コースの専攻主任を担当していた。まずはコースの教職員、学生の安否確認を最後の一人まで行った。個々には様々な事情があるが、全員が無事であったのは本当に不幸中の幸いだった。その後は研究科全体として、復旧から復興へ、という地道かつ活発な活動が進められたが、その活動の中にあって、東北大学の医療系スタッフの皆さんの底力を実感した。理工系出身である自分は医療の直接の先輩ではないが、学生の皆さんには、星陵キャンパスの諸先輩の志を継承して将来にわたって社会で活躍できる人材になってほしいと、これまで以上に強く思うようになった次第である。

本画像情報学分野では、MRI の画質や応用をベースとした研究を行っているが、MRI は、放射線被曝のない検査であることが何よりも大きな特長である。今回の様々な災害の中で、非侵襲な MRI 技術がさらに臨床現場で活用されるよう研究と教育を進めていくことが、分野の本務であるとあらためて考えさせられた。微力ながら、これまで以上に貢献してきたと考えているところである。